
魔王の新生活 ^ ^

secondxxx

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王の新生活^^

【コード】

N5707R

【作者名】

secondxxx

【あらすじ】

自称日本一のゲームの主人公は死んだ後の世界で魔王になります！！

新しい魔王生活の中でどう生きていくか！！！

初期設定（前書き）

初めての投稿です。

い 国語は評定で2の自分が頑張っていますのでよかったですら感想ください

初期設定

今日は朝から嫌な気分だったんだよ。。。

朝の占いだと12位だったし、

家でたら黒猫にからす見るし、

嫌だなく〜って思ってたらこでだよ。。。

え？意味が分からないって？俺ですら理解してませんけど?? WWW

まあ、あれだ。簡単に言つと

俺は、死にました^^

。。。。
車に引かれて。死んだ痛みって覚えるものなのね。。。。今でも痛い。

そこで、いま！！俺がいるところが真つ暗な空間だ。

辺り一面、闇！！だな。ここがどこだか分からない。

現状報告終わり！！

「ならば説明してやるう」

その声がしたほうを振り向く。いかにも神様だって言いそうな展開だな。ってかフラグ？

「わしは全治善良の神なり。お主が死んだので魂の救済にきた。」

うわ~~~~本当に言ったよ。。。しかも全治善良つきでWWW

「聞こえておるぞ！！なにがフラグじゃ。。。わしをなめおって。。。」

「で？魂の救済って？」

「あれ？あまり驚いてないの？わしの楽しみがなくなるのじゃが？」
「？」

「そんなのはゲームや小説で見飽きてるんだ。いちいち驚くか。生きている時は根っからの引きこもり」

だったのでその類は驚きはしない。

「あらま。。。まあ、そのほうが話が早い。お主には魔王になってもらう」

「おいおい！！！！さすがにつつまませろ！！神様が魔王を誕生させるなよ！！！！」

「今の魔王はもう歳じゃ。戦うことが出来ん。世界は悪役と英雄が常に必要なんじゃ。ゲームをやっとっ

たんだからわかるじゃろ？」

「こつも俺の想像と一緒にだとは。。。つてことは願いも叶えてもらえる系？」

「よくわかつてるの。。。その通りじゃ。」

あたりすぎて逆に怖い。。。じゃ、願い事を考えなくては。どうせ転生とかして今までのこととは違う

とこに行くんだろつな。。。魔物とか倒すんだろつから肉体強化か？いや、頭のよさとかもいいな。。。

Lv方式だろつから早く経験地が上がるようにしてもらつか？

「なにをいっとる願いはいくつでもいいんじゃぞ？」

「は？いくつでもって。。。無限？」

「うん」

「わしらを攻撃しろ。戦争を起こすんじゃよ、わしらに英雄とかバンバンでてくるように。」

。。。。。。魔王だもんな。うん。ってか、攻撃しろってMか！神様ってこんなんでいいの？

読者はどう思う???

「あと、わしらと言ってもわしはいないかなの？国王がいるから攻撃してくれ。」

「。。。わかった。もう何も思わない。で？手下って？」

「国王を攻撃するものたちじゃよ。四天王やら、二十四支柱やら、のことじゃ。」

その類ね。。。わかりやすくいいな。

「Lvってあるのか？」

「もちろんあるのじゃ。何のために手下を作る？」

この神様もそうとうのゲーマーだな。話してたら楽しそうだ。

「いくつが最高なんだ？」

「9999Lvじゃよ。もちろんお主はもとから9999Lvじゃぞ？魔王じゃからな」

俺チートWWW生まれた瞬間最強WWW

「じゃ、四天王として、Lv8000くらいのをくれ。あと、五大霸王として7500くらいをくれ。隠

しボスとか必要だよな。。。隠しボスで9500くらいのを。。。3体?くらいでいいか。二十四支柱っ

てのもいいな。1000〜6000くらいで作っというて

「ちなみに国王所属の英雄のLvは698くらいじゃぞ?」

「ヨワ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!俺を平均に考えちゃいけないのか。。。でも、そっちもLvは上

がるだろ?1000とか倒したら一気にそのくらいまでいかないのか?」

「うゝゝゝむ。。。ちと面倒だが初期設定から変えるか」

「ありがたい。Lvが1000のくらいって俺の中じゃ神なんだよ。ありがとう」「今までのやっってきたゲ

ームで9999もあったのは2つでやりこみまくった経験がある。あれは年までかかってクリアしたから

な。。。

「わかった。他になにかいる。。。。。。。。。」

こっつして俺の魔王生活が始まったのだった!!!

初期設定（後書き）

読んでくださってありがとうございます。

これからもちょくちょくだしていきますのでよろしくおねがいします

初の対戦

俺が、魔王になってから一週間がたった。こつちの世界は簡単に説明するところだ。

魔族（俺たちのこと）側と天族（神？）側の勢力で分かれている。もう、2000年も戦争が続いて

いるようだ。神？がどつちかの王が死んでもどんどん補充しているみたいだから終わることはないだろ

う。どつちも大きな大陸で出来ており、日夜戦闘を繰り返す日々であった。そんな日々を終わらせよう

と天族側が俺を殺そうと毎日頑張っているみたいだ。まあ、天族側の最高Lvは783らしいけど、俺

とは基本のスペックが違いすぎるwwwだから四天王？やら五大霸王？やら二十四支柱？やらをつくっ

てやったのだ。互いに競っていかないといけないらしい。今なら俺が攻めれば勝てそうだが。。。

そこでだ。せっかくだから俺も昔やってたポ○モンを思い出した

ので、俺も魔物のLv上げをしよう

と思う。読者の諸君異論はないな？あっても聞きません。

それで作ったのが「シン」と「レック」と「ミキシー」だ。シンは攻撃型の魔物で刀を装備させてあ

る。レックは魔法を使えて、主に攻撃魔法を覚えさせた。ミキシーは補助魔法。まあ、戦士に魔法使

い、賢者といったパーティーだ。悪くない。

「シン、レック、ミキシー。これからお前らに小さな町を襲ってもらう。どれくらいの強さがあるかの

検証だけだ。無理はしないでいくらか殺ったら帰って来い。こっちで見しておく」

ちなみに三人ともLvは1だ。そのほうが育てがいがあるWWW
そしてこの世界は一回死んだら蘇ら

ないシステムみたいだ。ポ○モンのようにはいかないようだ。

というわけでパーティー一行は町に到着。さっそく殺らせてみるか。

命令をだしたら即動く。支配者ゲーの基本ですねW死ぬ前までやってこいと命令を出したら1、2分

で町壊滅WWW

こいつら強すぎWWWもはやチート^^しかもLVが20まで一気に上がってる。神？が言ってた初

期設定すごすぎ。。。今は、「シン」LV21「レック」LV24「ミキシ」LV18とあがりすぎ

じゃね？

現状報告終わり！！

「これなら、天族側も一気にLv上がりますね」

「そうだな。これなら、早い段階で十二支柱を倒してくれそうだ」

今、話しているのがわからないことを教えてくれる「サポ」だ。

サポートからとってサポ。安易すぎ

るか？そんなことはほっといて、これで一番の心配事の魔族チートで天族破滅のパターンがなくなっ

た。

「二十四支柱ですよ。魔王様。その下の五十六騎士団が負けてくれないと話しにならないんですけど

ね。」

「俺、そんなん作つたっけ？五十六って多すぎじゃないか？」

「作りましたよ。敵は多いほうが攻略しがいがあるって言ってたじゃないですか」

そんなことも言ってたな。あと、いまさらであるが、サポはダークエルフのかっこうをしている。

神？の判断で俺好みの姿になっている。想像は付いてるだろ？そう、スタイル良好で性格神で身長は1

60センチぐらいだ。しかも、支配者ゲーの真骨頂の命令したら即動くはサポにも通じる。。。ふふふ

WWW

「サポ〜〜新しい地域の建築ってどうなってる？」

「はい〜〜。今は四天王の屋敷が出来てるだけですね」

「そうか。なかなか遅いな」

「屋敷なんてすぐには出来ませんよ。現実の世界と変わらないんですから、作る速度だって変わリませ

んよ。一週間で四天王の屋敷を作っただけでもすごい速さなんですよ？」

そう。これは、もうシミュレーションゲームでもあるのだ。ゲームにはありがたい設定だ。作った

魔物の家は自分が立てる。「ご恩と奉公だなWWW

「そうか。でも、それじゃ、いま、五十六騎士団を襲ってきたら何も無いところで戦うことになるんじゃない？」

「やないか？」四天王やら。。。は勇者がレベルアップしやすいように配置してある。いきなり強いのと

かは鬼畜だからしない。

「大丈夫ですよ。そこまで行くのに早くても1年はかかりますから^^」

「この生活。。。魔王って暇なのでは？」

「各、魔物のレベル上げやら前線の配置。まだまだありますから、心配しないでください」

逆に疲れてきた。。。魔物って軽く100万はいるよな？そのレベル上げて。。。配置も考えない

といけないのか。。。鬼畜。。。

あきらめるしかないか。

現状報告終わり!!!

初の対戦（後書き）

自分でもつまらない小説になってますね。

次はちゃんとした戦闘を。。。頑張ります

ゲームクリア？

魔王になってから一ヶ月がたった。

初めに作っていたシンヤレック、ミキシーも今はLv400まで上がっている。小さな村や町を三人だ

けで襲わせていたが、最近になってLvが上がらなくなった。相手が弱ければ弱いほどLvは上がらない

のだ。このLvまでくると天族側の上級の戦士を100人束になっても負けることはないだろう。なぜだ

か、こっちのLvが上がるのが半端なく早い。普通一ヶ月ではどんなに頑張っても3Lv上がるか上から

ないくらいだ。それなのにシンたちは400Lvまで達している。言うまでもないがチートだww

神？がLvをあげやすくするのを間違えて魔族サイドだけにしてしまったのだ。なので天族側の最高Lv

は800にも達していない。これではいじめに近いことになってしまう。神？に相談しに行かなければな

らなくなった。

「でさ〜どうすんの?これ」

「あんたが間違えた結果だろうが!!」激を入れる。

「わしだって間違えたくて間違えたんじゃないんじゃない!!うつかりしてただけじゃ」

「もう一回初期設定を変えればいいことだろ?」当たり前だが、こうなったのは初期設定を変えたがために起きてしまったことだ。

「それがね?もう、魔王としてお前が誕生したジャン?そしたらまた、どつちかが死ぬまで変えられない

のよ」

啞然とする。これでも神なのか?嫌、こいつはニセ神だ。。。

「ニセじゃない!!本物の神じゃよ!!仕方ないじゃろ、ゲームでも初めに決めた初期設定は変えられない

いものが多いじゃろうが!!それと同じと思え!!」

この世界はほんとにゲームと一緒にだな。。気づいていたが、ここまで一緒にだと萎えるな。

「萎えてはいかんぞ?まだまだ仕事はのこっとる。やってもらいたいことだつてあるのじゃ」

そんなこんなで今、国王の城にいます！！門番やら兵隊はシンと
レックだけで倒せましたwwwこいつ

らもなかなかのチートだな^^

「おのれ。。。よくもわが同胞を！！！」ぐしゃ！！。。。内臓が
散らばってますwww良い子はもう見

てられない映像になってるな。うん。

「さて、あとは国王と十人の聖騎士だけだな」あいての情報は神？
から聞いている。十人の聖騎士は先代

の魔王の部下を一瞬で蹴散らした兵たちだ。

「ぐはあ！！！」なんたら聖騎士全滅wwwシンたち俺より強い
のでは？

「ここまでくるとはな。。。」「国王が現れた！！」

「どつする？戦つwww」「国王に9999のダメージ！！」

「おのれ。。。」「国王は敗れたwww

余裕過ぎるwwwラスボス一撃。チートですもんね。はい。

「よくやってくれた。これで新しい国王が誕生できる。ようやく普通のRPGらしくなるな」

「俺らが悪なんだよな？相手『おのれ〜』とかいったよ？」

「まあ細かいことは気にするな。おかげでわしの楽しみが増えるようになった」

「お前のために動いたんじゃないし」

「やん。ツンデレ！！くしゃ！！。。。。。。。。。。。

「殺してやろっか??？」

「もう、殺してるじゃろ!!!神じゃなかったら死んでるよ??頭ぐちゃぐちゃだよ??再生しない

よっ」

無視する。

「で？新しい国王が誕生するまでそれくらいかかる？」

「はやくても一週間だな。手続きが大変なんだよ」

ゲームクリア？（後書き）

クリアです！！！！^^

次回から新しい国王誕生です。本格的なRPGにするよ~~~~

神の失態からの？（前書き）

ここまで呼んでくださったのならなんと云うたらいいの。。。
ありがとうございます！！

神の失態からの？

国王が死んでから一週間でたつた。

「サポ〜〜〜国王ってまだ誕生しないの？？」神？が言っていたとおりならそろそろだ。

国王は一週間くらいで手続きが終わるらしい。

魔王は一瞬で終わったが。。。

なのでそろそろ国王が誕生しても言いころなのだが、神？から連絡が来ない。

「まだですね。いいじゃないですか。城の建築に時間をかけられて
^^
」

そうなのである。まだ、五十六？騎士団の城が出来上がっていないのだ。

数が多すぎるため、建築の魔物たちが追いついていない状況だ。

「いつくらいで終わるの〜〜〜。。。」

待つのが嫌いなので早めに終わらせるように言っておく。

場所が変わって神？サイド

「困ったことになった。。。」

何が困ったのか？そう。まだ、国王の候補が一人としていないのだ。

このようなクソみたいなゲームに付き合つたのだからさうとうのゲームじゃなければいけない。
一週間のうちに一人としてゲームが死ななかつたのだ。。。
こうなつたら多少、というか大いに荒いが最終手段しかないか。
「ゲームのやつを心臓麻痺で殺してつれてくる!!!」

魔王サイド

「神?のやつ遅いな~~~~~何してるんだが
あれからまた一週間たった。当たり前だがその間この世界はある意味平和だ。

争う相手がいないつても暇なんだなと前の世界を思い出す。
ゲームでもなんでも、『敵』は必ずいたからみんな味方は暇すぎる。。。

「なんか、暇つぶしできないかな~~~~」

「それでしたら、魔国舞踏会したらどうですか?」

急なサポの提案に戸惑いを隠せない。

魔国舞踏会?初めて聞く名前だな。また、神が言い忘れたことか。
。。。

「魔国舞踏会ってなんだ?」

「あれ?ご存知ないんですか?また、神様の伝える力が無いことがわかりますね」

サポまであきれてるWWW

「わかりました。説明しましょう」

魔国舞踏会とは、簡単に言うと魔物達のランク付けだ。

魔王サイドにも階級というのがあって、それで地位も変わっているのだ。

方法としては、同じ敵をどちらが先に倒すかなどが一般的だが、魔力の大きさを勝敗を決めることもある。

魔王の力があれば、同じLvの魔物を作ることは簡単だ。

だが、元の最高Lvが999なのでそれ以上の魔物は神にしか作れない。

なので四天王や五大霸王のようにLvの高い魔物をランク付けすることができない。

しても、すぐに終わって勝敗が決まらないからだ。

「それは面白そうだな!!! やろう」

「え?。。。ですが、どうやってやるんですか???’」
サポが疑問に思うのは無理も無い。

いま、城にいる魔物はLv5000以上しかない。

「俺には、今まで育ててきた魔物がいるだろ?」

「あいつらの三人で勝敗を決める」

「あ、あの三人ですね? だったらすぐにできますよ?」

そう。あの三人とは『シン』『レック』『ミキシー』の三人である。

ミキシーは補助としているので今回は出ないことにしたので、

シンとレックの一騎打ちである。
作ったと言えど、感情はどっちも持っている。
負けん気だけは強いので面白い勝負になるんじゃないかと思う。

ただいまのシンとレックのLvは『シンLv818』『レックLv814』

ほとんど変わらないのである。

国王の戦いの時に一気に上がった。そのためこの高さである。

決まったので二人にやるか聞きに言ったらやる気満々だった。
こうなったらそうとう強い敵にしないと。。。くくくwwww

そうして決まった相手が「ダークプリンセス」である。
名前からは人型の女性のようだが、れっきとした『ドラゴン』である。
黒く輝く体をしていて、戦い方が美しいことからこう呼ばれている。

俺も試しに神に9000Lvくらいにを作ってもらって戦ったが、
30分もかかってしまうほどだ。
さすがに今回はシンたちのLvを考えて下げているが、
それでも、Lv900にしているwww
シンたちにとったら鬼畜だろう^^それだから面白い。

魔国舞踏会は明日ということになった。

現状報告終わり!!!

神の失態からの？（後書き）

今回もバトルシーンかけなかった。。。
説明多くてつまらないな。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5707r/>

魔王の新生活 ^^

2011年3月16日19時56分発行